

白樺派の中心作家  
木下利玄生家



指定区分	県指定史跡
読みかた	きのしたりげんせいか
所在地	岡山市北区足守
指定年月日	昭和34年3月27日
解説	明治大正期の歌人、木下利玄の生家。利玄は佐佐木信綱に師事し、武者小路実篤や志賀直哉らとともに雑誌「白樺」を発刊した。白樺派の中心作家として活躍を続け、歌壇に新風を巻き起こすとともに、明治大正の文学史に大きな足跡を残した。利玄は最後の足守藩主の弟の次男で、生家は足守藩邸内にある。生家入り口右の土蔵の中からは豊臣氏の貴重な古文書などが発見されたことでも知られる。
アクセス方法	JR足守駅から中鉄バス:大井方面行「足守中之町」から徒歩5分
公開状況	外観のみ
設備	
備考	

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	木下利玄生家
よみかた	きのしたりげんせいか
しょざいち (所在地)	岡山市北区足守
していしたひ (指定した日)	昭和34年3月27日
せつめい	木下利玄(きのしたりげん)は、明治(めいじ)から大正(たいしょう)の時代(じだい)の文学(ぶんがく)に大きな影響(えいきょう)をあたえた作家(さっか)です。この木下利玄が生まれた家には大正時代の建物(たてももの)が残っています。入口の右にある蔵(くら)からは、とても貴重(きちょう)な、豊臣氏(とよとみし)の古文書(こぶんしょ)などが発見(はっけん)されました。